

National
Parks
of Japan

凡 例

- 地種
 - 特別保護地区 (Orange)
 - 第一種特別地域 (Purple)
 - 第二種特別地域 (Pink)
 - 第三種特別地域 (Light Green)
 - 普通地域 (Light Blue)
- 世界遺産地域 (緩衝地帯含む) (Red dotted line)

Map labels include: 大石林山, 茅打バンタ, 尾西岳, 西銘岳, 伊集の湖, 国頭村, 照首山, 伊部, タカシ山, ファンチン岳, ランガー湖, 与那覇岳, カナヘ湖, 大宜味村, 赤又山, 伊部岳, 新川湖, 東村, ネクマチチ岳, 塩屋富士, 玉辻山, 津波山, 鹿佐次湾のヒルギ林.

Scale: 0 2 4 6 8 10 km

Compass rose pointing North (N).

●やんばるの魅力●

- やんばるの森の生物多様性の高さと独自の自然環境
- 地域の中で受け継がれてきた自然と共生した文化、景観とそれを守ってきた人々
- 自然と共生する暮らしと、人との繋がりを感じられる集落の暮らし、自然と共生し保全しながら活用してきた産業
- 自然や文化に触れ、地域で育まれてきた価値観を学ぶ、本物の体験

●やんばるの課題●

- 自然環境保全に向けた地域の共通理解形成が不十分で、来訪者に対しても協力を促す取組も必要
- 地域に対する愛情や興味・関心の希薄化、集落の活気が低下
- 来訪者の受入体制、利用の恩恵を自然環境や地域社会が享受できる仕組みづくりが不十分
- 地域人材の不足

●やんばるの目指す姿●

いのち
人と自然 多様な生命を紡ぎ・育み、風の人と共に歩むやんばる

※風の人 | 外から関わる人

●滞在体験の魅力向上に向けて大切にしたい考え方●

- ①地域の資源を守りつつ持続可能な形で利用する仕組みをつくる
- ②地域が大切にしているやんばる3村の魅力を来訪者に伝える
- ③やんばる3村の財産である自然環境の保全に充てる
- ④地域の課題解決に貢献する

●考え方を実現するための取組の方向性●

- ①適正な利用の推進
- ②インタープリテーションの推進
- ③自然環境の保全への再投資の仕組みづくり
- ④滞在体験の魅力向上による地域づくり・地域社会への貢献

やんばる3村が一体となった滞在体験の魅力向上に向けて、3村に1カ所ずつ宿泊機能を中心とした利用拠点を設定し、連携して地域としての滞在体験の魅力向上を実現 → 取組着手が可能な状況にある利用拠点「やんばる学びの森地区」で先行的に着手

国頭村：やんばる学びの森

- 3村中央部東側の世界遺産緩衝地域内
- 東海岸への誘因や南北への波及効果が期待
- 国頭村有地(指定管理)
- やんばるの森を眺望する宿泊施設、展示施設、キャンプ場、遊歩道からなる環境学習施設。ガイドウォーク、カヤック等のアクティビティを提供
- 一定の広さの未利用敷地があり、宿泊施設を新設することが可能

大宜味村:塩屋濱・結の浜

- 塩屋湾を望む展望デッキ、遊歩道、遊具等の地域住民の交流・塩屋湾との触れ合いの場所となっている結の浜公園（H26年供用開始）と大宜味村が宿泊施設の誘致を目指す約5.5haのエリア

東 村:福地ダム周辺

- 自然観察船やカヤック等のアクティビティが行われている福地ダム、自然環境と生活について学ぶことができる東村立山と水の生活博物館、パンガローやキャンプ場等の宿泊施設やアクティビティが提供されている東村村民の森つじエコパークなどの利用施設が集中しているエリア

●やんばる学びの森地区の検討の方向性●

- ①新たな宿泊施設の誘致、既存施設のリニューアル等、滞在施設全体の魅力向上に取り組むとともに、やんばる国立公園ならではの自然体験アクティビティの提供や情報提供(ビジター施設機能)の強化等、地域独自の魅力を活かした、滞在体験に必要なコンテンツをパッケージで提供する拠点として機能を付加
- ②整備・運営にあたっては、地域内外の民間事業者の発想・ノウハウを活用
- ③他の利用拠点等と面的に連携し、やんばる国立公園における滞在体験の提供
- ④新たな宿泊施設を誘致する場合、世界遺産緩衝地域であることも踏まえ適正な規模となるよう留意

施設配置状況



●面的連携の目指す方向性イメージ●

既存の点的に存在する利用機能が互いに連携し、やんばる3村ならではの感動体験をパッケージとして利用者に提供

